



同援だより

2024年

新春号 (198号)

● 主な内容 ●

グループのビジョンを語る
私の夢
施設通信



『Peaceful Days!』 ゆたか苑



年頭のご挨拶

理事長 飯山 幸雄

明けましておめでとうございます。

本同胞援護会の各施設ご利用者並びにご家族の皆様、本会と様々な関わり合いのある皆様、そして本会運営の重責を担う役職員とご家族の皆様にはお健やかに新年を迎えられたことと存じお慶びを申し上げます。

この3年間私たちの生活に大きな影響を及ぼし「コロナ禍」という言葉もできた新型コロナウイルス感染症も、昨年「2類相当」から「5類」に位置付けが変更され、重症化する患者さんが減少し、社会経済活動も「コロナ」以前に近づいてまいりました。しかし、まだまだ油断はできませんので、本会の施設におきましては予防対策の徹底に努めております。引き続きご関係の皆様のご理解をいただきたいと存じます。

さて、昨年のがわ国の新生児は70万人代前半になったのではないかとある報道機関が予測していましたが、「異次元の少子化対策」を実施するという政府の意気込みにもかかわらず、少子化はとめどもなく進行しつつあると考えられます。一方、第一次ベビーブーマーが後期高齢者になる2025年は来年ですので、少子高齢化はますます進行することとなると考えられます。

このような状況において、社会福祉事業の中核的担い手である社会福祉法人の役割は、一層重要になってくると言えます。後期高齢者の増加は、必然的に介護の必要な方の増加となります。従って、介護老人保健施設・介護老人福祉施設等の入所型介護施設や自宅で生活される方に訪問介護やデイケア・デイサービスを提供する介護事業所に対する需要は一層増加するところとなります。一方出生数が減っても社会経済情勢の変化による保育需要は衰えないでしょうし、要支援児に対するケアのニーズも高まってくるものと思われます。そして、社会的な養護が必要な子ども、自立生活が困難な母子、困難な問題を抱える女性、障害により入所あるいは通所の生活支援や就労支援等が必要な方、施設入所による生活扶助の必要な方等福祉ニーズのある方は必ずいらっしゃるの、福祉サービスの提供は今後とも必要不可欠です。さらに、社会の表面に明確に現れない貧困＝ボーダーラインでの生活に苦しむ人々も数多く存在します。このようなあらゆる意味で生活上の困難を抱えた人々に対して、真心を持って寄り添い、必要な支援を公正な立場で的確に提供できる主体は社会福祉法人です。

本年も同胞援護会は、この社会福祉法人の基本的な立場を踏まえ福祉事業の充実を図り、都民の皆様が安心して暮らすことのできる地域社会づくりに取り組んでまいりたいと存じます。皆様のご多幸を祈念申し上げます。



グループ長 グループのビジョンを語る

障害者支援系グループ



東村山生活実習所施設長
あらい たかお
荒井 隆夫

求める職員像

令和7年度より、杉並区久我山の地で新しく障害福祉サービスを開始することとなりました。事業内容は、生活介護40名、グループホーム10名(2ユニット)、ショートステイ2名の3階建て合築による運営となります。

障害者支援系グループとしては、平成18年に東京都から移譲を受けて運営を開始した立川福祉作業所、東村山生活実習所に続き、7つ目の新事業となります。

事業運営として当然なことですが、利用者の尊

厳・人権を守り幸せの追求をしていくこと、安全で安心して利用できること、地域に根付いた施設運営をすること、そして一人ひとりが生活の主体者として存在意義を感じながら生活(活動)できることにあります。

数年前に新等級基準フレーム(職能)を各グループが作成し、キャリアデザイン(求める職員像)を示しました。グループ(職種)ごとに等級別に求める職員スキルは異なってきますが、誠実さや前向きな姿勢、社会人としてのマナーやルールが守れるなど、当たり前のこと(基本)を大事にしたうえで、各階級に沿った能力やスキルを積み重ね、法人の核となる人材へと成長して頂けることを願っています。

社会は大きく変貌しています。利用者の生活形態、職員の働き方も大きく変わってきました。職員がこの仕事に遣り甲斐と誇りをもち、キャリアデザインに沿った成長をしていける職員集団(障害者支援系グループ)として取り組んでいきたいと思えます。

保育支援系グループ



同援いぐさ保育園施設長
からさわ えりこ
唐澤 江里子

選ばれる保育園を目指して

各園で工夫しながら同援10園で目指す保育に向けて実践してくれている職員の皆様、日々ありがとうございます。保育グループの近況と私の想いをお伝えします。

コロナによりさらに拍車がかかった少子化の波が、当法人にも少なからず影響が及んでいます。しかしそれよりも大きな課題は保育士の人材確保です。ここ数年は法人総務部と人材確保について、どのように対策していくか考慮しています。昨年は更なる強化のために園長たちが養成校へ出向いて、同援の保育園について話をする機会を作り、そこから採用へ繋がることもありました。しかし残念ながら、まだ十分ではありません。

現在働く職員に向けては末長く働いてもらうために、働きながらも学べる研修制度、勤務時間内に保育から離れて事務作業や保育の振り返りをする時間として「ノンコンタクトタイム」の導入をしています。研修制度は等級基準に合わせて様々な分野から選択し、各自の得意分野を業務に活かしやりがいを持って活躍してもらいたいと思っています。またノンコンタクトタイムについては、現場の職員が1週間に1~2時間の取得を目標に各園で工夫をしています。他にも心理職員の活用も検討中です。

令和3年から実施しているミライ委員会をきっかけに各園や現場の職員の抱えている課題について、園長たちで話し合う機会は今まで以上に増えました。すぐに解決は難しくても、課題を共有することで「これが解決への糸口になるのでは?」ということは情報を発信し、まずは行動に移すことを意識しています。ぜひ、職員の皆様も目指す保育と同様に「主体的」に取り組んでいきましょう。職員一人ひとりの輝きが地域で愛される、選ばれる保育園となることにつながっていくことを願ってやみません。

児童・女性支援系グループ



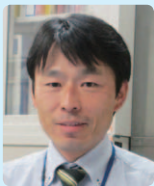
いこいの家施設長
たしろ ひでゆき
田代 秀之

尊重しあえる組織を目指して

新任研修で児童女性支援グループを紹介させていただいておりますが、根拠法が各事業で異なります。そして支援の対象年齢も0歳から70歳台と幅も広く、利用者一人ひとりの解決課題も大きく異なり多岐に渡っているのも特徴です。入所は措置制度によりますが措置の仕組みも各事業により異なる点も特徴です。言い換えると経営的にも違いがあるということです。そして利用者支援は±0から開始されることは少なく、殆どのケースで0以下から支援がはじまります。一つひとつの課題と向き合い、丁寧に

伴走する中でも常に壁に突き当たるのが日常です。社会的養護の課題、母子支援、女性支援、そこにまつわる関係者との課題など、改善されない課題も多くあります。それでも利用者の言葉に傾聴し表情や態度を見極め心に寄り添うことに務め、地域社会への巣立ちを支援します。共通して言えることは、利用者一人ひとりの最大の利益を守ることであり、ケースによっては命を守ることです。こうした支援業務の日常に不可欠なことはチーム力であり組織力です。それは一朝一夕で作ることはできません。職員相互に相手の良い点を明確に評価し、尊重し合う積み重ねこそが、困難な問題を抱えた利用者一人ひとりの自立支援に繋がる原動力になります。また、社会的養護を担うことを生業としていることこそが遣り甲斐であり、仲間との関係が組織を醸成すると考えています。是非、児童女性支援グループで経験し活躍いただくことを期待しています。

高齢者支援系グループ



原町ホーム施設長
あさみ ふみたか
浅見 文隆

グループの未来を描く

現在、ウクライナ情勢の長期化や経済活動の抑制による影響から物価の上昇等による厳しい経営環境にあります。コロナ禍後の社会の変化 施設・事業所内の変容 慢性的な人材の不足 間近に迫る2040年問題とグループの内外を問わず様々な問題に直面しています。

高齢者支援系グループは、長い歴史を持ち地域社会に深く根ざしてきました。そしてこの歩みはこれからも続きます。私たちは存在意義を示し、未来に向けて進化し続けます。未来への舵を切り、共に歩む仲間とともに、持続可能な共生社会を築き上げることを決意しました。そ

して今年の6月にミライ委員会という組織を立ち上げました。

「福祉をつくる ～時とともに、地域とともに歩み、みんなでサービスを作ります～」

- **Balance** (安定した経営)
福祉ニーズに応え続けます
働く人の安心を支えます
- **Try** (新たな支援への挑戦)
幸せな社会実現に貢献します
一歩踏み出す勇気を後押しします
- **Service** (質にこだわるサービス)
目の前の困っている人に手を差し伸べます

と理念に掲げました。2040年の理想の姿を求め、達成するため高齢者支援系グループ職員全員が一丸となり突き進んでいきたいと考えております。

まだ、この取り組みは動き始めたばかりで、創り始めたばかりです。私たちの「思い」と「力」でグループの未来を描き、達成させましょう。



私の夢

児童養護施設 双葉園 (幼児ユニット)

- おまわりさんになる (R・Oくん 5才)
- パンダになる (K・Wくん 5才)
- ちょうちょになりたい (M・Hちゃん 5才)
- ウルトラマンになりたい (A・Mくん 5才)
- きょうりゅうになりたい (R・Oくん 3才)
- ちいかわになりたい (N・Tちゃん 3才)
- 電車とマリーちゃんになりたい (R・Nちゃん 3才)
- アンパンマンになりたい (K・Wちゃん 3才)



さいわい福祉センター

私の夢はプロ野球選手になることです。それを叶えるには努力が必要です。やはり毎日朝から通うことができないとダメな事がわかりました。まずは朝から来ることから始めてその後は地道な練習をすることが必要です。

憧れの選手は元中日、巨人で活躍した井端選手です。あの華麗な守備と、右打ちのバッティングが好きでした。

またアニメの「メジャー」も好きなので、この夢をつかめるように基礎トレーニングから頑張りたいです。そしてバッティングと送球に磨きをかけたいです。2030年には日本代表になりたいなあ。小1から始めた野球、諦めずに頑張ります。「ドラフト3位、T本田」と呼ばれるために。

(利用者 T本田さん)



私の夢は二つあって、その中でも一番の希望は保育士になることです。子どもはかわいくて大好きなので、子ども達の面倒を見るのが私の夢です。子どもと一緒に遊んだりすると喜んでくれるところが嬉しいからです。

その為には専門学校に通いながら保育士の勉強を頑張りたいと思っています。

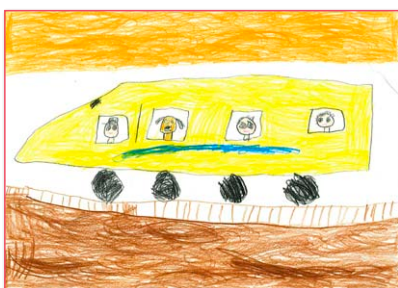
もう一つの夢は、鉄道が好きなので、全国鉄道旅をすることです。東北から九州鹿児島まで鉄道を使って移動することをいつか実行してみたいです。

(利用者 鶴岡 龍星さん)



つつじが丘保育園

- 歌や踊りが大好きだから、アイドルになりたい。(あおい)
- 可愛くて踊るのが上手だから、アイドルになりたい。
(リタ)
- 悪い人を捕まえたいから、警察官になりたい。(かずま)
- 洋服をたたむのが好きだから、洋服屋さんになりたい。
(こなつ)
- 虫や恐竜を発見する人になりたい。(ひなた)
- 電車の運転手になって、ドクターイエローを運転したい。
(ともき)
- 体操教室や空手をならって強くなりたい。(たいら)
- 虫博士になって、いろいろな虫を探したい。(けんいち)
- パティシエになって、チョコやケーキやクッキーをたくさん作りたい。(しな)
- 貴重な物が欲しいから、洞窟とかに探しに行く探検家になりたい。(だいすけ)
- 警察官になって、みんなのことを守りたい。(かんな)



- たくさんお友達をつくりたい。(じょう)
- テレビで野球を見てやりたいと思ったから、野球選手になりたい。(はじめ)
- 美味しいケーキを作ってみんなに食べて欲しいから、パティシエになりたい。(しほ)
- ピアノが上手に弾ける人になりたいから、ピアニストになりたい。(かなた)
- サッカー選手になって、日本代表になりたい。(みさき)
- プューロランドのマイメロディの着ぐるみの中の人になりたい。(うみ)
- 推しの子みたいなアイドルになって、みんなの前で歌って踊りたい。(みつぎ)
- サッカー選手になって、日本代表になりたい。
(そうたろう)
- 自分が作った食べ物がいつも美味しいから、ドーナツ屋さんになりたい。(すず)
- 誕生日にみんなのお祝いをしたいから、ケーキ屋さんになりたい。(あかり)
- 走るのが好きだから、マラソン選手になりたい。(けんご)
- みんなを守るのが好きだから、みんなを守れるヒーローになりたい。(しの)

昭和郷小規模多機能居宅介護センター

ケアマネジャー たむら たかし
田村 崇

在宅支援の魅力

「昭和郷小規模多機能居宅介護センター」は地域密着型サービスです。「高齢になって支援が必要になっても自宅で暮らしたい。」「介護が必要になった家族といつまでも自宅で一緒に暮らして行きたい。」そんな気持ちに寄り添いながら昭島市の在宅支援の一端を担っています。在宅支援と一口に言ってもそのニーズは様々で、毎日色々な事が起きますが職員皆が額を寄せ合いあれこれ話し合いながら利用者の生活を下支えしています。この「生活の下支え」というのがとても重要と考えています。あくまでも支えであり代替ではない、主役はご利用者本人である事を常にポイントとして考えながら、食事の事・おトイレの事・ゴミ出し・日中独居等とご利用者固有の特徴に焦点を当てて支援を開始しています。ここから在宅支援のやりがいのある所でご利用者はとても力があり、困っている事のフォローを始めたら途端に元気に

なって高齢の姉妹や夫婦で力を合わせての生活がまた回り始めたりするのです。それは水分の事や、確実に薬を飲む事など単純ではありますが、これらの大切な事がきっかけだったりもします。回り始めた生活の下支えを続けているうちに、今まで見えていなかった、聞き取れていなかったニーズが見えてくるようになって、またご利用者の人生に係わる事ができるようになる在宅支援はとても魅力的と感じています。そんな魅力的な小規模多機能型居宅介護（昭和郷高齢者複合施設内）のサービスの事をもっと知りたいと思ってくださった方、是非見学にいらしてください。



みなと保育園

園長 のた もとこ
野田 泉子

みんなかがやけ、太陽の子

みなと保育園は、都会の真ん中にあり白金高輪と言う住宅街にあります。

地域柄、外国籍のお子さんも少なくありません。みなと保育園の特色である家庭的な保育園にプラスして、今年度から3・4・5歳児に外国人講師による英語教室を取り入れました。幼児の年齢で、100%英語だけのレッスン（日本語に頼らずに英語を学ぶ）に楽しく取り組み、体験しています。ハワイ出身の先生（ステイブン先生・デイビット先生）と身体を使ってのびのび楽しい時間を過ごしています。特に4・5歳児は、先生が入室前から『Who is it?』と待ちわびています。英語を始めて一番感じる事は、3・4・5歳児という異年齢の活動で1時間英語に集中し楽しんでいることです。これを保育の中で実践することは難しい時もあると思います。その中で、私たちも、先生のリアクション、

ユーモアなどを見習うようにし『楽しい・嬉しい』という気持ちが持てるように頑張っています。

幼児の頃から異文化として、外国人とコミュニケーションをとり、英語が楽しい！英語は難しくない！という気持ちを大切にしたいという先生達の思いが良く伝わります。

この楽しい時間をみんなで過ごし、これからを担う子ども達の太陽のような笑顔がいつまでも続く様に、見守っていきたいと思います。



サンライズ万世（母子生活支援施設）

少年指導員 みやいり まい
宮入 舞

再開した外出行事

サンライズ万世ではコロナ禍のため行事を縮小して施設内で活動をしていました。

昨年度から感染症対策に気をつけ少しずつ外出行事が再開できるようになり、子どもたちは新しい経験をすることができています。

夏はデイキャンプで『高尾の森わくわくピレッジ』に行き、自然の中ですいか割りやうどん打ち体験をして、秋は遠足で『よみうりランド』に行きました。

作ったうどんを食べた子どもから「自分で作ると美味しいね」「上手にできたね」と嬉しそうに話があり、中学生は高校生に高校生活について質問をする様子も見られました。

外出行事では楽しんでもらう・リフレッシュしてもらうという目的のほかに、公共交通マナーを学び協調性を身につける練習や子どもたちにお金を渡しお土産を購入してもらう買い物訓練なども行っています。

参加児童は小学生1年生から高校生3年生まで

だったため異年齢グループに分かれ行動しました。同じ施設内で生活していても、普段は関わることのない子どもたちが学童レクリエーションを通して関わる中でお互いに刺激をもらっていました。

施設の外にでると子どもたちでお互い協力し合い考えて行動する姿が見られ、サンライズ万世に帰ってくる頃には一回り成長したお兄さん・お姉さんの顔になっています。

同学年の関わりだけではなく、他学年との関わりを通して子どもたちの興味や活動の幅が広がれば良いと思っています。

今後も感染症対策に注意を払い利用者支援を行って行きたいと思っています。



立川福祉作業所

生活支援員 たけだ りょうたろう
武田 遼太郎

人とコロナとたちふく祭と

コロナ禍以降、我々の生活も大幅に変わりました。施設の行事も模索しながら実施しています。以前の「たちふく祭」は利用者と一緒に売店や、職員がゲーム屋台などをして利用者・保護者・地域の方に楽しんでもらえるように開催していました。

昨年は利用者・職員と一緒に楽しむことをコンセプトに鑑賞型で開催しました。その形を継承しながら、今年度はどのようなことが出来るか検討しました。その結果、サッカーチームの東京ヴェルディ1969の普及コーチ2名、パフォーマーでクラウンのからふる@ぼけっとじっきい、バスケットチームのアルバルク東京チアリーダー2名にご協力頂き、利用者・職員・保護者と共に鑑賞することで「明日もがんばろう!!」と思えるような企画をしました。

館内を綺麗に装飾し、当日を迎えました。利用者が通所してきた瞬間、「入口の雰囲気が違う！いっぱい飾りがある」とテンションの高い声が館内に聞こえてきて、作業所全体が楽しい雰囲気に変わりました。

た。利用者の中には、観覧中に座り続けることに疲れてしまう方もいるのではないかと心配しましたが、流行した「エビカニクス」ダンスや風船を使った参加型のパフォーマンス、ジャグリングやコマ回しなど、とても興味深く身を乗り出して見ながら、「おお！」といった感嘆の声が上がっていました。

特にアルバルク東京のチアリーダーによるじゃんけん大会は白熱しました。司会を進める中で、いったい何回「あいこでしょ」といったか覚えていないくらいでした。

まだまだ感染症が続いており、旅行やお祭りなど少しずつ開催方法を模索しています。今度はどんな「おお！」という感嘆の声が聞けるか楽しみにしながら行事を企画したいと考えています。



ご支援ありがとうございました (敬称略順不同)

ご寄付 ◇一般財団法人みらいこども財団
◇国際ソロプチミスト昭島 会長 和気恵子
◇公益社団法人豊島法人会 会長 池田憲治

後援会 ◇林美枝◇幡野信子◇大橋政照
◇高仲智子◇志田原陽果◇山内悦
◇東京冷機工業(株)◇(株)石塚家具店◇(有)海老山◇
(株)フソー◇戸山商事(株)◇昭和の森エリアサービス

(株)スマイルケア昭和の森◇風間造園(株) 代表取締役 風間修一◇合資会社松野薬局 会長 松野榮仁◇(株)コスモス医工 代表取締役 小林寿男◇(株)ケイエス機材◇(有)横手モータース◇(有)原島組◇唐沢電気(株) 代表取締役 小林利美◇(株)八王子アイスフードセンター◇ワタキューセイモア(株)東京支店 支店長 野澤和弘◇日清医療食品(株)◇(有)いとう教材社◇(有)ラッコクリーンサービス 代表取締役 佐々木憲寅◇(株)渡辺テント 代表取締役 渡辺厚志

祝

表彰・感謝状
受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方々が表彰されました。おめでとうございます。

【全国社会福祉協議会 会長表彰】

●さやま園
施設長 三瓶 達矢
生活支援員 小川 里美

東京都同胞援護会 ウクライナの子ども達への支援活動報告 2023

各職場にユニセフの募金箱を設置して、昨年に引き続き本年度も募金の呼び掛けをおこないました。

活動内容 「ウクライナ緊急募金」
活動期間 令和5年8月～9月

10月17日に公益財団法人日本ユニセフ協会へ25万6,462円を送金することができました。昨年の募金活動と合わせますと本会の支援金合計は73万7,799円となりましたのでご報告申し上げます。

子どもたちと家族にとって2022年に戦闘が激化してから、2度目の本格的な厳しい冬の生活が訪れています。今なお、戦争の終わりが見えず、電力や暖房が不足する中で生活に直接手を差し伸べることが出来ませんが、本会の活動がせめて戦争の影響を受けている子供たちへの一助となれば幸いです。

ご協力していただいた方々に感謝申し上げますとともに、この世界の平和を脅かしている戦争が一日も早く終息することを願っています。



雑感

自転車で通勤する道に小学生の登校見守り隊の方がいます。最初はお互い知らない者同士だったので素通りでしたが、毎朝顔を合わせるので、自然と「おはようございます」と声を掛け合うようになりました。その方は通りかかる方には満面の笑顔で挨拶していて、小学生には「この前お友達とは仲直りできた?」「今日は楽しいことがあるといいね」などと、子ども一人ひとりに「おはよう」の挨拶に一言プラスして学校へ送り出しています。そんな言葉かけが朝から聞こえてくると、微笑ましく温かい気持ちに・・・私も朝から沈んだ気持ちの時に見守り隊の方から「おはようございます。気を付けて行ってらっしゃい」と声を掛けられると、気持ちが切り替わり「今日も頑張ろう!」とパワーが沸き笑顔で気持ち良く出勤できるのです。

改めて挨拶はとても大切だなと感じつつ、私自身も周りにいる人が前向きになれる挨拶や言葉かけを心がけたいと思います。(大山保育園 大越 記)

発行者 理事長 飯山 幸雄
社会福祉法人 東京都同胞援護会
東京都新宿区原町 3-8
電話 03(3341)7161 <https://doen.jp>

印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国 4-1-8

令和6年1月5日 発行

